ご飯を待ちながら

伊藤貴晴　作

【登場人物】

 男１　大学生

 男２　大学生

 女１　大学生

 女２　大学生

 男１の部屋。こたつの上に炊飯器。男１と男２が向かい合ってこたつに座り、紙に何か書き込んでいる。

男１ ササキが五個？

男２ ああ

男１ んで、ムラマツが七個だったっけ？

男２ いや、やっぱり五個にしてくれってさ

男１ 何だよ、根性ねえなぁ

男２ 後は？

男１ えっと、オオウチが十個

男２ お、いいねぇ

男１ あと、タナカが五個

男２ 結構来てるんじゃないか？

男１ ああ

男２ どうなった？

男１ えっとな、ナカツカが五、ナカオ五、ヒロタ五、フカセ十、イノウエ五、タカツ二十

男２ 二十？

男１ 二十

男２ マジで？

男１ 余裕だって

男２ へぇ。で？

男１ あと、俺が五でお前が十。合計が……九十、かな

男２ 九十か。もうちょっとだな

男１ でもかなり集まってるぞ

男２ いけるな

男１ ああ

男２ あと女１と女２か

男１ あいつらオッケーするか？

男２ 大丈夫だろ、五個ずつなら

男１ まあなぁ

 女１が入ってくる。

女１ やっほ

男２ おう

男１ チャイム鳴らせって言ってるだろ

女１ いいじゃん別に

男１ 勝手に入って来るな

女１ 嫌なら鍵掛けなさいよ

男２ それは困る

男１ お前には聞いてない

男２ 聞いてよ

男１ 何でだよ

女１ どうでもいいじゃんこんなの

男２ こんなのって何だよ

男１ この前、鍵掛けてたら二十回連続でチャイム鳴らしやがった

男２ 二十二回だ

男１ 面倒だしな、鍵掛けるの

女１ じゃ、いいじゃん

男１ 一応鳴らせよ

男２ 何してるか分かんないぞ

女１ 今更そんなこと言われたって

男１ 俺にプライバシーはないのか？

男２ ない

女１ うん、ない

男１ お前ら死ね

女１ 今日はカレー？

男２ おう、俺が死ぬほどうまいの作ってやる

男１ 死んでしまえ

女１ カレーなんか誰が作ったって一緒でしょ

男２ 今日のカレーは一味違うぜ

女１ 火、大丈夫？

男２ おっと

 男２退場。

男１ 女２は？

女１ もうすぐ来るんじゃない？

男１ 何でみんな俺ん家に来るんだ？

女１ 近いから。広いしね

男１ 誰か住んだりしないだろうな

女１ 合鍵作ってよ

男１ バカ

女１ 何でこんなとこに炊飯器置いてんの？

男１ どっかのバカが置いたんだよ

　男２ バカって言うな

女１ 邪魔じゃない？

男１ 邪魔

女１ どかしたら？

男１ 怒るんだよ

女１ 男２が？

男１ うん

女１ 何で？

男１ 炊けるのが待ち遠しいんだって

女１ バカじゃない？

　男２ バカって言うな

女１ その紙何？

男１ ああ、これは

 男２戻ってくる。

男２ 女１、お前に頼みがある

女１ 嫌

男２ 聞けよ

女１ 何？

男２ ハンバーガー好きだろ？

女１ まあ……

男２ 昼飯に五個ぐらい余裕だろ？

女１ 何で？

男２ じゃ、明日頼む

女１ まだ返事してないんだけど

男２ 頼んだぞ

女１ 何企んでるの？

男１ ハンバーガー百個計画

男２ あ、俺が言おうとしたのに

男１ 俺が発案したんだぞ

男２ やろうって言ったの俺だろ

女１ 何それ？

男１ マックに行って、ハンバーガー百個頼むんだよ

女１ それでどうすんの？

男２ それだけ

女１ バカじゃない？

男２ バカって言うな

男１ 賛同者募ってるんだよ。ほら（紙を見せる）

女１ はぁ、なるほど

男２ お前と女２で五個ずつ頼みたい

女１ 女２そんなに食べられる？

男２ うむ、三個ならいけるかな。男１七個食えよ

男１ え？　そんなに食えねえよ

男２ 大丈夫だろ、そのくらい

男１ 分かったよ。七個な

女１ ねぇ

男２ ん？

女１ ハンバーガー百個頼んで何がしたいの？

男２ 何がしたいって、分かんないか？　こうやって何気ない顔で店に行ってさ

男１ いらっしゃいませ。ご注文は何になさいますか？

男２ ハンバーガー百個下さい

男１ ……少々お待ち下さい

男２ こういう反応見たくない？

女１ バカじゃない？

男２ バカって言うな

 女２登場。コンビニの袋を持っている。

女２ カレーできた？

男２ まだ

女１ やっほ

女２ やっほ

男１ チャイム鳴らせよ

女２ 気にしない気にしない

男２ よし、鍋見てくる

 男２退場。

女２ 寒いねー

男１ 一気に冬だな

女１ 例年にない寒さだって

男１ 何か毎年そんなこと言ってないか？

女２ 雪降るかな？

女１ まだ降らないんじゃない？

女２ 雪降らないかなー

男１ 雪ねぇ

　男２ なあ、これもういいかな？

男１ どれ？

 男１退場。

女２ そだ、アイス食べる？

　男２ 食べる

女１ 何でこの寒いのにアイスなのよ？

女２ こたつでアイスは常識よ？

女１ どんな常識よ？

　男１ もういいんじゃない？

　男２ ルー入れるぞ

女２ アイス食べるー？

　男２ 冷蔵庫に入れといて

女２ 分かった

女１ よくそんなの食べる気になるわね

女２ いる？

女１ 遠慮しとく

 女２退場。

　女２ あ、カレーっぽい

　男１ 当たり前だろ

 女２戻ってくる。

　男２ そうだ、女２

女２ 何？

　男２ お前、明日の昼飯ハンバーガー三個な

女２ え、うん。分かった。…何で？

女１ 聞かない方がいいわよ

女２ 何で？

女１ 聞いちゃだめ

　男１ これ入れるの？

　男２ うん、スプーン一杯

　男１ これ何？

　男２ かくし味

　男１ 賞味期限大丈夫か？

　男２ 大丈夫大丈夫

　男１ まだ生っぽいけど

　男２ これ皮剥いて

　男１ おう

　男２ うおっ、まだ生きてる

　男１ だろ？

　男２ 死んでもらいます

　男１ ことこと煮込むー

　男２ 後はこれだな

　男１ 何か臭くないか？

　男２ よし、こうだ

　男１ ウィーン、バリバリバリ

　男２ セロテープある？

　男１ はい

 間。

　男２ はっはっは！

　男１ 蓋しとくぞ

　男２ おう

 男１と男２戻ってくる。

女１ 何やってんの？

男１ カレー作ってんの

女１ 嘘吐け

女２ 帰っていいかな？

男２ 逃げるな

女１ 何食べさせる気よ？

男１ カレー

女１ あの会話のどこがカレー？

女２ 私、帰る

男２ 大丈夫だって、絶対うまいから。なあ？

男１ ……うん

女２ 帰るー

男２ 今夜は帰さないよ

女２ えっ

男２ へっへっへ

 男１がこたつの中からハリセンを取り出し男２を叩く。

男２ 冗談だよ

女１ 何でハリセンなんかあるの？

男１ 何となく

女２ 味見してきていいかな

女１ 私も行く

 女１と女２退場。男１はこたつに座っている。男２はこたつに潜り込み、男１の反対側に足だけ出す。体が伸びたように見せたいらしい。女１と女２戻って来る。女１は女２に男２の足を押さえるように指示し、男２の足をくすぐる。しばしもがく男２。放してやるとこたつから男２が出てくる。

男２ やめろバカ

女１ あんたがバカでしょ

男１ どうだった？

男２ ふざけんなよ

女２ 結構おいしかった

女１ あんたがそんなとこに潜ってるから悪いんでしょ

男１ だろ？

男２ ユーモアだろ

女２ 何入れたの？

女１ ただのバカじゃない

男１ 内緒

男２ バカって言うな

女２ 教えてよ

男１ それはダメ

男２ そこ、和んでんじゃねえ。お前足で押さえてたろ

男１ だって暴れるから

男２ お前俺の味方じゃないのか？

男１ 何で俺がお前の味方なんだよ

女２ ごはんまだ？

女１ まだ炊けてないよ

男１ これ炊いたのいつだっけ？

男２ 買い物から帰って、六時半過ぎ

男１ 今は？

女１ 七時二十二分

男１ そろそろ炊けてもいいんじゃないか？

男２ まじ？

女２ 量が多いと時間かかるんじゃないの？

女１ 何合炊いたの？

男１ 六合

女１ 多くない？

男２ 女１、二合くらい食べるだろ

女１ 食べないわよ

男１ 余分に炊いてあるんだけど、おかしいな

女２ 壊れた？

男２ 不吉なこと言うなよ

男１ 壊れたかも

男２ だからそういうこと言うなって

女１ 壊れたか

男２ お前らなぁ

女２ ランプが緑になるんだよね

男１ 炊けるとな

女１ もう炊けてていい時間なんでしょ？

男１ 多分

女１ 開けてみる？

男２ やめろ

女１ 何で？

男２ 炊けてなかったらどうすんだ。おかゆにカレーかけて食うのか

女１ 開けてみないと分かんないでしょ

男２ 俺はふっくらした新米コシヒカリを食べたいんだよ

女２ コシヒカリ？

男１ さっき買ってきた

女２ そうなんだ

男１ 五キロ一七五〇円。とても安かった

男２ 必死で運んできたんだぞ

男１ 俺がな

女１ じゃあ待ってる？

女２ お腹空いた

男２ 多数決だ。炊けるまで待った方がいいと思う人

 男２手を挙げる。

男２ 今開けたいと思う人

 男１、女１、女２手を挙げる。

男２ じゃあ炊けるまで待ってよう

男１ おい

男２ 少数意見尊重しろよ

女１ 黙れ

女２ 開けるよ

男２ やめろコラ

男１ 六合は炊いたことなかったよな

女２ え？

男１ まだ炊けてない可能性もある、と思う

男２ さすが男１、いいこと言う

女１ じゃあもう少し待ってみる？

男１ そだな

女２ お腹空いたー

男２ 我慢だ

女２ お腹空いたー

男２ アイスでも食ってろ

女２ そうする

 女２退場。

女１ 何で六合も炊くのよ

男１ こいつが食べるって

女１ バカ

男１ バカ

女２ ばかー

男２ バカって言うなよ、みんなして

男１ だってお前バカじゃないか

男２ ……バカやろー

 男２退場。

男１ 火、弱くしといてー

女１ あ、トイレ借りるね

男１ うん

 女１退場。女２、アイスを持って戻って来る。

女２ アイス食べる？

男１ いい

女２ おいしいよ

男１ 寒いだろ

女２ おいしいよ

男１ いい

女２ おいしいよ

男１ 後でもらう

女２ うん

男１ 寒くないか？

女２ 冬はこたつでアイスです

男１ 変な奴

女２ へへっ

男１ 何笑ってるの？

女２ 何となく

 悲鳴が聞こえて男２と女１が駆け込んでくる。

女２ ど、どうしたの？

男２ 黒いものがカサカサっと

男１ ネズミ？

男２ 何でネズミがカサカサって音するんだよ

男１ パタリロだってカサカサって音するぞ

女２ 何がいたの？

女１ ゴキブリ

女２ うっ

男１ 殺した？

男２ いや

男１ 何で？

男２ でかかったんだよ

男１ 殺せよ

男２ ゴキブリ嫌いなんだよ

男１ そんなこと言ったらゴキブリが可哀相だろ

男２ 可哀相？

男１ 可哀相だろ。嫌いなんて言われたらショックで泣いちゃうかもしれないじゃないか

男２ え、ん、ごめんなさい

男１ 女１、殺してきて

女１ 絶対嫌

男１ しょうがないな

 男１ハリセンを持って退場。

男２ あいつって時々理不尽な事言うよな

女１ いつもだと思う

女２ ゴキブリ嫌い

男１ お、いたいた。へぇー、いい体してるね。最近どう？　寒いからしんどいっしょ。え？　ハハハ、そりゃ大変だ。今年は寒いらしいから、体に気を付けて。じゃ

 ハリセンの音が響く。しばらくして男１が戻ってくる。

女１ 何で会話してるの？

男１ いいだろ、世間話ぐらい

女２ 話できるの？

男２ できるか阿呆

女２ アホじゃないもん

男２ 嘘吐け

女２ 本当だもん、多分

男２ 殺したら可哀相じゃないのか？

男１ 俺、あんな奴と一緒に住みたくないよ

男２ やっぱり理不尽だ

女１ うん

男１ でもたまにいるんだよな

女１ え？

女２ 何が？

男１ ゴキブリ

女１ 私、帰る

女２ 私も

 女１，女２、帰ろうとする。

男１ 前もさ、帰って来たらそのあたりにいて

 男１は部屋の出口あたりを示す。女１，女２、引き返す。

男２ この辺？

男１ うん

 男２、そこに体操座り。

男１ あ、ども

男２ あ、ども。お邪魔してます

男１ あ、はい。どうぞ

男２ ……

男１ あ、お茶でも

男２ あ、どうぞお構いなく

男１ あ、はい

男２ ……

男１ 寒いですね

男２ あ、そうですね

男１ ……

男２ ……

男１ 何か食べますか？

男２ あ、いえ、本当にお構いなく

女２ 話してたの？

男１ そんな感じでいるんだよ

女１ どんな感じよ

女２ それでどうしたの？

 男１はハリセンで男２の頭を叩く。

女１ 一つ聞いていい？

男１ 何？

女１ 何でそこでハリセン持ってるの？

男１ 常備してるから

男２ 痛いんだけど

女２ 一匹いたら三十匹いるんだよね

男１ あ、そこ

男２ うわっ

 男２は男１に抱きつこうとしてハリセンで叩かれる。

男２ 何すんだよ

男１ それはこっちの台詞だ

女２ 男２、怖がり？

男２ 自慢じゃないがな

男１ 男同士で抱き合って楽しいか？

男２ それもそうだな

男１ やりなおし。あ、そこ

男２ うわっ

 男２は女２に抱きつこうとして男１にハリセンで叩かれる。

男２ 痛いよ、君

男１ そういうことをするな

男２ じゃあどうしたらいいんだよ

男１ 普通怖がるのは女だろ？

男２ あ、そっか

男１ もう一回行くぞ

女１ あんたらバカでしょ

男２ よし、俺の胸に飛び込んでこい

女２ 嫌

男１ じゃあどうしようかな

女２ 女１に飛びついたらいいんじゃないの？

女１ 嫌

女２ 女１なら守ってくれそうじゃない

男２ それは嫌だ

女２ 何で？

男２ 絶対蹴られる

男１ じゃ、それでいってみよっか

男２ え？

男１ あ、そこ

男２ うわっ

 男２は女１に抱きつこうとして蹴りを喰らい、そのまま腕ひしぎ十字固めをされる。すかさず男１は四の字固めをかけ、女２が足をくすぐる。男２がタップして、解放される。

男２ やめろバカ

女１ あんたがバカよ。ふざけてるから

男２ ふざけてたのはこいつだろ

男１ お前ノリいいな

男２ まあな。でもあそこまでするのはひどくないか？

男１ それはまぁノリだろ

女２ ノリだ

男２ 腕ひしぎは反則だぞ

女１ 何でよ？

男２ 感触が

女１ 貸して

男１ はい

 女１は男１からハリセンを受け取り男２を叩く。

男２ 何すんだよ

女１ スケベ

男２ いつか仕返ししてやるからな

女１ やれるもんならやってごらんなさい

男２ ……見てろよ男１

男１ 俺か

女２ ねえ

男２ ん？

女２ そのハリセンってさっきゴキブリ叩いた奴だよね

男２ ……

男１ 気にするな

男２ 気にするだろ、普通

男１ 大丈夫だって

男２ 捨ててこい

男１ はい

 男１退場。

男２ あ！

女１ 何？

男２ 福神漬け買ってない

 男１戻ってくる。

男１ 要らないだろ別に

男２ 要るだろうがよ

女１ 要らない

男２ 何でだよ、カレーには福神漬け要るだろ

女２ 要らない

男２ てめえら

男１ 要るなら勝手に買ってこい

男２ おう。要るから勝手に買ってくる

女２ 言いにくくない？

男２ 言いにくい。炊けても勝手に食うなよ

男１ それはできない相談だな

男２ 食ったら殺す

女１ コンビニ行くの？

男２ ああ

女１ 私も行く

女２ 何で？

女１ ジャンプ読みに

男２ 立ち読みか？

女１ 悪い？

男２ ジャガーさんおもしろかったぞ

女１ 内容言ったら殺すわよ

男１ 気を付けてな

女１ 二人はどうするの？

男１ 寒いからパス

女２ 寒いからパス

男２ アイス食ってる奴が寒いとか言うな

女２ こたつはあったかいからいいの

女１ すぐ戻ってくるから

男２ 炊飯器見張ってろよ

男１ 見張ってどうなる

男２ 念じるんだよ、炊けるように

 男２、女１退場。女２は炊飯器を見つめている。

男１ 何してんの？

女２ 念じてるの

男１ 無駄だ。やめろ

女２ はい

男１ あいつもアホだな

女２ みんな男２のこと嫌いなのかな

男１ 別に嫌いじゃないだろ

女２ でもみんなひどいよね

男１ からかって遊んでるだけだって

女２ それもちょっとひどくない？

男１ いや、全然

女２ そうかな？

男１ あいつマゾだから

女２ そうなの？

男１ 冗談だよ

女２ 冗談か

男１ 多分

女２ ……

男１ 女２は嫌いなの？

女２ 何が？

男１ 男２

女２ 好きだよ、おもしろいし

男１ ならいいじゃん

女２ でもただの友達だよ

男１ いや、そんな深い答えは期待してないけど

女２ 私は女１が好きなの

男１ はいはい

女２ 女１、綺麗だよねー

男１ はいはい

女２ 男２も女１が好きなんだよ

男１ はいはい。……え？

女２ そうなんだよ

男１ マジ？

女２ うん

男１ 聞いたの？

女２ そうじゃないけど、見てたら分かる

男１ そうか？

女２ 私、そういうの分かっちゃうんだ

男１ 嘘ぉ

女２ 嘘じゃないよ

男１ 天然のくせに

女２ 天然じゃないもん

男１ 男２が？

女２ うん

男１ へぇー

女２ でもね

男１ ん？

女２ 女１は好きな人がいるんだ

男１ へー、そんな奴いるんだ

女２ いるよ

男１ 誰？

女２ 男１

男１ ……嘘吐け

女２ 本当だよ

男１ 何でだよ

女２ 見てたら分かるもん。女１、いっつも男１のこと見てる

男１ 見てない

女２ 見てる

男１ 勝手なこと言うな

女２ 何でよ

男１ あいつがそう言ったのか？

女２ まだ聞いてないけど

男１ ほら、ただの推測だろ

女２ でもそれは

男１ 見てたら分かるって？

女２ うん

男１ バーカ

女２ 何でよ

男１ そんなことあるわけないだろ

女２ そんなことあるもん

男１ 勝手なこと言うな

女２ 男１だって女１のこと好きなくせに

男１ ……何だよそれ

女２ そうでしょ？

男１ 違うよ

女２ 嘘

男１ 本当だよ

女２ 嘘だよ

男１ 何でだよ、勝手なこと言うな

女２ 本当のこと言ってよ

男１ あるわけないだろ、そんなこと

女１ 嘘吐かないで

男１ バカじゃない？

女１ 嘘吐き

男１ 炊飯器開けてやろうかな

女２ そうなんでしょ？

男１ 開けてやる

女２ 答えてよ

男１ 開けるぞ

女２ ねえ

男１ あ

女２ 何？

男１ 炊けた

女２ ……本当だ

 男１、炊飯器の蓋を開ける。

女２ おいしそう

男１ あいつら呼びに行かなきゃ

女２ ねえ

男１ ん？

女２ そうなんじゃないの？

男１ ……そうだよ

女２ 良かった

男１ 何が？

女２ 当たってた

男１ バカ

女２ 両思いだね

男１ 可能性は低いな

女２ きっと大丈夫だよ

男１ 勝手なことばっかり言うな

女２ 呼びに行こっか

男１ ああ

女２ あー、外寒いかな

男１ なぁ

女２ ん？

男１ 女２は、好きな人とかいるの？

女２ 私？

男１ ああ

女２ いるよ

男１ 誰？

女２ 秘密

男１ ふーん

女２ 十年ぐらい経ったら教えてあげる

男１ は？　何で十年？

女２ 十年ぐらいしたら失恋も笑い話になるよね

男１ ……

女２ 早く行こ

男１ あ、おい

 女２出て行く。男１は立ったまま動かない。少しして女２が戻ってくる。

女２ 雪が降ってる

男１ マジ？

女２ 早く

男１ あ、ちょっと待てよ

 女２、男１出ていく。舞台中央に炊飯器。

 終わり。